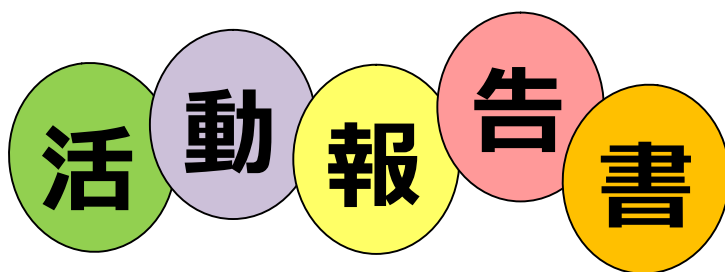
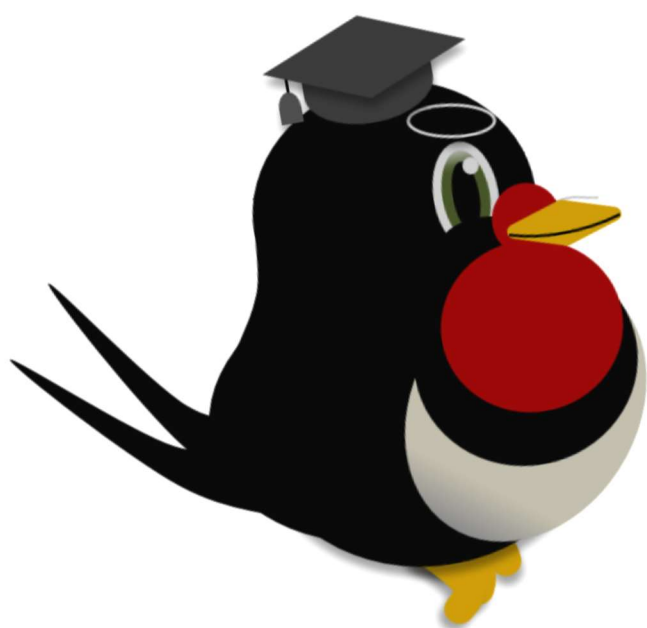


令和5年度 羽ばたけつばくろ 応援事業



燕市教育委員会

～小学生から20歳までのみなさんの『夢』を募集します～ 羽ばたけつばくろ応援事業

燕市では、若者の主体的な活動を応援する、「羽ばたけつばくろ応援事業」を実施しています。

対象は、「燕市に住所を有する高校生から20歳までの個人」または「燕市に住所を有する小学生から20歳までの者が代表となる団体・グループ」とし、将来を担う人材の育成を目指します。

若者が将来なりたい自分を設計し、実現するための自己啓発、体験活動、学習、研究、視察などの活動や、地域で取り組むイベント、地域活動など社会参画事業の企画を募集し、個人は10万円、団体は25万円を限度にして補助を行います。

若者たちの「達成したい目標」、「叶えたい夢」、「住んでいるまちをもっとよくしたい」の実現に向け一歩踏み出すきっかけづくりを応援していきます！

なお、本報告書は令和6年2月17日（土）に開催した「羽ばたけつばくろ応援事業成果報告会」における5団体の成果報告の概要を取りまとめたものです。



糸半(いとはん)プロジェクト～手を取り合う小池のつながり～



【団体名】小池中学校生徒会

【代表者名】常野 莉央

活動の目標	<p>平成 27 年度より先輩方がスタートさせた糸半プロジェクトの名称に込められた思いを引き継ぎ、今年度のテーマの下で活動する。</p> <p>糸半プロジェクトを小池中学校と地域との「絆」の象徴として広く知ってもらえるようにしたい。</p>
活動の内容	<p>地域との共通のテーマとして、「防災」と「福祉」を視点とした学習に取り組んだ。</p> <p>「防災」：地域合同防災訓練に参加し、地域の一員としての役割（安否確認、避難所での集計作業など）を果たした。災害時に地域の人とともに何ができるかを考えるため、全校道徳を実施し、意見交換を通じて考えを深めた。</p> <p>「福祉」：1 年生は認知症サポート講座で認知症を学んだ。2 年生は地域の方とワークショップを行った。3 年生は認知症の方への「疑似体験（声かけ）」を通して関わり方を学び、協力いただいた皆さまに学びを発表した。「介護・福祉学びの収穫祭」で資料を市役所に展示するなど、地域にも発信ができた。</p> <p>これまでの地域貢献活動に加えて、新たに「人との関わり」を大切にし、つながりを重視した活動に取り組んだ。生徒会本部が中心となって、杉名児童館を利用している児童との交流活動（ボランティア）も行った。</p>
活動の成果	<p>生徒アンケート「将来、人の役に立つ人間になりたい」で肯定的な回答割合が 93%を示した。活動を通して、人や地域との関わり大切さに気づき、関わろうとする意識がより高まった。</p>
これからの目標	<p>地域の様子を知り、課題に対し、自分たちに何ができるのかをさらに考えていきたい。</p>

分水は新潟の要



【団体名】分水高校文芸・美術部

【代表者名】田村 蒼空

活動の目標	分水地区を広く新潟県民に知ってもらおう
活動の内容	<p>BSN 放送の朝番組「THE TIME,」 にいがたクイズ に分水地区に関するクイズを作成し、応募する。</p> <p>①取材の趣旨を説明しアポをとり、信濃川大河津資料館、にどこみえーる館道の駅国上に行き資料収集を行った。</p> <p>②取材をもとに、クイズを作成、デモ動画を撮った。</p> <p>③作成した問題文とデモ動画を携え、道の駅国上、にどこみえーる館、信濃川大河津資料館へ成果報告のため訪問した。</p> <p>④信濃川大河津資料館、にどこみえーる館の信濃川河川事務所より文面・内容確認等を受けた。</p> <p>⑤信濃川河川事務所より了解を得て、テレビ局へ応募した。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール調整の難しさを学んだ。 ・アポイントを取り、時間通りに行う大切さを実感した。 ・学校のネット環境に制約があり苦戦したがアイデアで乗り切った。 ・正確な知識の収集に努めることができた。 ・改めて大河津分水に学び直すことができ、地元に愛着を感じた。
これからの目標	<ul style="list-style-type: none"> ・放送されること ・シリーズ化して、毎年問題を応募できること

「国上山の植物と鳥」の作成



【団体名】燕中等教育学校 サイエンス部

【代表者名】中島 陸斗

活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国上山の主要な植物と鳥に関するカルタを作成し、小・中学校に配布することで、学習に役立てもらう。 ・私たちの住む燕市について、より理解を深める。
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ①フィールドワークで出会った植物と鳥を図鑑を用いて調べる。 ②調べたことをもとに説明文をつかってまとめた。 ③誰でも楽しめるようなクイズをみんなで考えた。 ④リズムよく楽しめるように読み札の文をみんなで考えた。
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や鳥を自分の目で確かめることができた。 ・図鑑を読むきっかけとなった。 ・子供が楽しんで学べるカルタとなった。
これからの目標	<p>今年までの３年間で国上山の植物と鳥シリーズが完成した。来年度は、燕市に限らず、他の生き物を学んだり、科学実験を行っていきたい。</p>

燕の歴史発見！プロジェクト



【団体名】つばくろ探究 歴史チーム

【代表者名】高波 遊

活動の目標	燕市の知られざる歴史を発見し、みんなに燕市の魅力を知ってもらう。
活動の内容	黒滝城へのフィールドワークを行ったり、吾妻鏡などの資料を読んでまとめ、考察する。燕市の国上山に関する歴史のパンフレットを作成する。
活動の成果	パンフレット「国上山に眠る軌跡 知られざる歴史が今ここに」の完成
これからの目標	<ul style="list-style-type: none">・記載にミスがないか、再度確認する。・細部を修正し、パンフレットを完成させる。・完成したら、燕市内の小・中・高にパンフレットを配布する。

給食メニューでSDGsと燕市をPR



【団体名】燕のごちそうプロジェクト

【代表者名】大塚 日那多

活動の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学生・中学生の頃に食べた思い出に残る給食「トマみそカレー豚丼」のおいしさをPRする。 2. SDGsに沿った活動をする。 3. 心のこもった接客で燕市のファンを増やす。
活動の内容	<p>「トマみそカレー豚丼」を道の駅国上で販売し、売上金を地元のこども食堂へ寄付する。</p>
活動の成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 給食のおいしさをPR 学校給食に関わる栄養士さん、道の駅国上のスタッフのみなさん、地元の農家のみなさん、分水商工会女性部のみなさん、地元の仕出し組合のみなさんなど多くの人々の力を借りて「トマみそカレー豚丼」200食を調理し、完売することができた。大人に助けてもらったことで、協力することや、人と人のつながりの大切さがわかった。新潟日報などメディアに取り上げていただき、話題づくりができた。 2. SDGsの行動 調理では燕市産・新潟県産の野菜やお米を多く取り入れ、地産地消に取り組んだ。また、さとうきび由来の容器や木製のスプーンを使用したことでプラスチックの使用を控え、環境に配慮した。さらに、チラシやポスターでの紙の使用は最小限に留め、SNSなどを活用した。最終的に子ども食堂（分水きずな食堂）へ売上金全額 10 万円を寄付することができた。活動の一つ一つに達成感があり、楽しかった。 3. 燕市のファンを増やす 笑顔での接客や私たちの活動をステージイベントでPRして頑張った。ファンが増えたかどうかは判断できないが、新聞記事などを見て声をかけてくださる地域の方がいたので、少しは貢献できたのではないかなと思う。
これからの目標	<p>分水きずな食堂の活動をお手伝いしながら、地域のために自分たちができることを考えて行動につなげていきたい。今回の経験を、これからの学校での学習や、将来の選択につなげていきたい。</p>

●審査委員長 長岡技術科学大学大学院 伊藤 敦美 准教授による講評



皆さん、発表ご苦労様でした。昨年度の報告会で、応募が3件にとどまったことが残念だったと申し上げたのですが、今年は5件に増えて、とても嬉しい気持ちで発表を聞かせていただきました。皆様の活躍を地域の方に知っていただき、今後さらに応募が増えてほしい気持ちです。

各団体・個人への講評

【小池中学校 生徒会】

「糸半プロジェクト」は9年目の活動になりました。これほど長く活動が続けていることもすごいです。毎年、新たな視点で活動を広げていっているところが、さらに素晴らしいと思います。特に今年度は、「人」との関わりを中核に捉えて、お年寄りに加えて、小学生も対象とした新たな活動に広がりました。今後の活動がさらに楽しみになっています。コメントで、「自分事として考えることが大切だと感じた」と話していただきました。今後もその気持ちを持って、活動が続けてほしいです。

【分水高校 文芸・美術部】

「THE TIME, にいがたクイズ」への応募を目指すというプロジェクトは、羽ばたけつばくろ応援事業が始まって以来初めての企画で、とてもワクワクして今日の報告を伺いました。話を聞くと、色々な苦労があったようですが、良い方向で話が進んでいるとのことですので、ぜひ活動が続けて、クイズの出題に結び付けてほしいと思っています。ぜひ、頑張ってください。

【燕中等教育学校 サイエンス部】

これまでの活動の積み重ねが活かされた、魅力的なカルタが出来上がったと思っています。昨年度の成果報告会で、身近なところに、こんなに豊かな環境があることをぜひ多くの人たちに知ってほしいと申し上げました。多くの人たちに知ってもらうための、よいツールが出来上がったと期待しています。多くの学校に配り、沢山の子どもたちに遊んでもらえるといいかなと思います。遊んだ子どもたちの感想も、ぜひ聞かせてほしいと期待しています。

【つばくろ探究 歴史チーム（燕中等教育学校）】

勉強の成果が表れた素晴らしいパンフレットが今後完成しそうだという期待を感じました。とても詳細で、読み応えのあるパンフレットになりそうです。パンフレットを学校で配ったり、道の駅に置く予定ということなので、手に取った人たちの感想を報告していただくと、さらに活動が広がると期待しています。

【燕のごちそうプロジェクト】

6月の審査会では、100食を提供するということでしたが、今日の発表では、100食を上回る200食を完売とのことで、大きな活動になったと思っています。達成までには当初の予定よりも多くの方々の協力があったとのことで、皆さんの行動力には驚かされました。皆さんの気持ちが、地域の人たちに届いて、3人の力だけではできなかったことも、頑張れば応援してくれる大人が周りにいるんだ、協力すれば実現できるんだ、という経験を忘れないでほしいと思いました。

今年度全体を通して、皆さんの力だけではなく、地域の方の協力を得た活動、人と人との繋がりが感じられる活動が多かったのではないかと、という印象を受けています。コロナ禍でこれまでできなかったことを存分にやっていたのではないかと思います。審査委員長として、とても嬉しい気持ちです。こんなに大勢の方々に来ていただける報告会は久しぶりだと感じているところです。

教育の現場ではコロナ禍を経て、「協働的な学び」、みんなで一緒に学ぶということが再認識されているところです。今だからこそ必要な活動を今回していただけたのではないかと、と思っています。これからも皆さんの活動が地域を巻き込んで、燕市を盛り上げてくれるとよいなと期待しています。引き続き、今後とも頑張ってください。

●鈴木 力燕市長による労いの言葉



発表した皆さん、本当にお疲れさまでした。例年にない、活気ある、そして内容も充実した発表で、非常に嬉しく思いながら聞いていました。

各団体・個人への講評

【小池中学校 生徒会】

長年継続して活動を行っていて、上手くバトンが繋がれているんだと毎年感心しています。素晴らしい賞を貰えたという話も聞いていますので、また今後も活動を続けてほしいと思います。

【分水高校 文芸・美術部】

久しぶりに分水高校から応募の手が挙がりました。苦労したプロセスが皆さんを成長させてくれることと思います。小池中学校出身者がいたことで、羽ばたけつばくろ応援事業の申請に繋がったこともすごい話だと思いました。ぜひ、クイズが放映されるように頑張ってください。

【燕中等教育学校 サイエンス部】

上手く継続して、バトンを渡せていると思いました。「燕中等教育学校を支援する会」というものがありますので、この取り組みを周知し、印刷費を賄えればと思います。ぜひ、これからも活動を繋げていってほしいなと思います。

【つばくろ探究 歴史チーム（燕中等教育学校）】

単に教科書を読むだけでなく、地域の中で歴史を学んでいく意義や素晴らしさを、ぜひ日本史の先生方の前で発表すると思いました。鎌倉時代から朝鮮半島と分水が繋がっていたという話があるので、歴史好きの皆さんは興味をそそるのではないのでしょうか。興味があれば、そのような内容も今後活動の範囲に入れていくと面白いかもしれません。

【燕のごちそうプロジェクト】

今回は4団体が学校単位での申請でしたが、学校を超えたグループでの申請で、新しいパターンだと思いました。歳も小学生と高校生で離れているので、このようなパターンも今後出てくると嬉しいなと思いました。皆さんの活動が好評だったので、道の駅で商品化することになり、今も販売しています。皆さんが投げた石は大きく広がっており、素晴らしいことと思います。

今後も色々なことにチャレンジしてってもらいたいと思います。

皆さんは、「成瀬あかり」という人は知っていますでしょうか。「成瀬は天下を取りに行く」という小説の主人公です。この小説は、本屋大賞にもノミネートされており、続編も出ました。成瀬あかりは、小学校の頃からみなさんと同じように様々なことにチャレンジしていき、自分の信念を持っているのですが、皆さんの発表を聞いて、燕市には成瀬あかりがいっぱいいるなと思いました。彼女の友達は、物語の中で、成瀬あかりの歴史をずっと見続けたいと言っているのですが、わたしも皆さんの成長や歴史をずっと見守っていければと思っています。

皆さんがこれからも色々なことに挑戦し、大きく羽ばたいていくことを期待しています。今後とも挑戦を続けていってくださいという願いを申し上げまして、ねぎらいの言葉とさせていただきます。本当にお疲れ様でした。